生物生産科学科 T.K.

全体的な感想

私が AIMS プログラムを通して学んだことは３つあります。友情，他国の文化，自国の素晴らしさの３つです。もちろん他にもたくさんありますが，ここでは特に印象を受けたこれらの３つを紹介します。

１つ目は友情です。私は現地インドネシアにて非常に多くの友達を作ることができました。正直に言うと全員の名前はわかりません，というくらい多くの友達ができました。同じ授業や学部の子，同じ趣味の子，お店で知り合った人など，数知れません。そして彼らは本当に良くしてくれました。たくさん遊びに誘ってくれ，いろいろ手助けもしてくれました。私は日本のキャンパス内で留学生に合うと，挨拶はしていましたがそれ以上の手助けなどはしていませんでした。これからは彼らを見習ってもっと積極的に留学生の手助けをしていきたいと感じています。

２つ目は他国の文化です。生活の仕方，宗教，言語など日本と異なることが多々ありました。しかし私はカルチャーショックなど特に受けることもなく，それらを素直に受け入れ生活することができました。生活の面では，バイトはせず，自炊はしない，洗濯物はランドリー屋さん，と日本では自分自身でやることの多くが，現地ではする必要がなく，時間がたっぷりあり時が流れるのが遅く感じました。また，ほとんどの方がイスラム教であり，あまり身近にない宗教について知ることもできました。言語については，インドネシア語が英語に近い部分があるということもあり，多くの生徒が，英語が上手ですごく自分にとって良い刺激になりました。

３つ目は自国の素晴らしさです。これは実際に国を出てみないとわからないことだと思います。正直に言うと，現地では良いことばかりではなく，時には悪いこともありました。そういった時に思うのは，日本って素晴らしい国だなということです。食事に対する衛生面，交通機関の綺麗さ，仕事に対する意識など，これまでは普通だと思っていたことが，実はとても恵まれていることだと気づきました。こういったように誇りに思える国に生まれ，育ったことを嬉しく思います。

このように，このプログラムでは非常に貴重な経験をすることができました。これらは家族，学校関係者の方，友人など，多くの方の支えがあったからこそできた経験だと思います。これからはそういった方への感謝をしつつ，この経験を活かして，より充実した人生を送っていきたいと感じています。

履修科目

Production of Annual Crops（3 単位）
Soil Management（3 単位）
Principles of Plant Protection（2 単位）
Farm Management（2 単位）

Fish Technology（2 単位）
Seminar（1 単位）

授業から学び得た専門的な内容について

今回の留学では，私が日本で専攻している分野とは少し離れた授業が多く，新たな視点から専門的な知識を学ぶことができました。また，他国の農業の現状や技術なども知ることができました。
Annual crops について，この授業は毎週実習があり，それを通して実践的に知識を身につけることができました。実習では作物の植え付け範囲や，その中でも調査の対象になるものならないもの，井戸から水を汲んでジョーロやバケツで水やりをすることなど，専門的なことから伝統的な方法まで，幅広く学べました。座学では，Annual crops の定義から始まり，種類やそれらの特徴などを知ることができました。
Soil management について，この授業は難しい内容ではあったが，非常に興味深い科目でした。フィールドトリップにも参加し，そこでは砂地でお米や唐辛子などを生産しており，熱帯地域の農業技術を目の前で知ることができました。
Plant protection について，農薬の話などがありましたが，同じ作物でも作物によっては日本と異なった害虫や動物が対象とされるため，母国との違いを知ることができ，非常に面白い内容でした。
Farm management について，この授業では主に作物の流通について学びました。インドネシアでの作物流通について学ぶことができたのはもちろんですが，知ってそうで知らなかった日本の流通制度についても，日本を紹介するプレゼンテーションを作成するために自ら調べ，改めて学ぶことができました。
Fish technology について，この科目は最も苦戦した科目でした。今まで学んだことがなかったので，新たに学ぶことばかりでした。魚について知ることができ，また，かまぼこなど日本の技術の素晴らしさが世界に広がっていることを知り，感動しました。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

私の専門は昆虫学なので，今回履修した授業の中で，Annual crops，Plant protection では殺虫剤の使用などについて学んだため，直接的に関連する内容でしたが，その他の科目でも関節的に関連していることに気づくことができました。例えば，Soil management，Fish technology では土壌によって発生する害虫や動物の違い，魚の中に寄生する寄生虫などについて学びました。また Farm management では流通方法の違いによって，食品を安全に届けられるか，害虫が発生して新鮮度が保たれなくなるかなど，技術的な面で昆虫学に関連する内容でした。はじめは専門外の内容に戸惑いもありましたが，最終的には全ての内容が関連しているということが理解できました。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

海外での授業を履修するにあたって工夫した点は，現地の友達にたくさん聞くようにしたことです。わからないことがあれば何でも質問をしました。直接聞けないときは，メールなどでもやり取りをしました。先生や生徒によるプレゼンテーションが行われるときは，積極的に質問をするようにし，記憶残るように努力しました。現地のことは自分で調べても限界があるし，やはり現地の人に聞くことが一番確かであると感じました。また，知らない単語などはその場ですぐに調べ，覚えるまで何回も使うなどして身につけました。

資源生物科学科 H.S.

全体的な感想

私がこの留学を通して学んだことは，新興国だからといって先進国に較べて知識が劣っているということではなく，設備などに限界があるためにうまく生かしきれていないのでは，ということです。そして，日本とは異なり労働人口が多いために，机上では効率を求める農業システムを作れるにもかかわらず，できるだけ多くの人に仕事を与えないといけないという制約によりそれが実行できていないという現実も目の当たりにしました。国が違えば，その国の抱える問題も違うという，言葉にしてしまえばとても当たり前のことですが，私は今回の留学を通して，実体験として学ぶことができました。
現地の学生との関わりについては，授業の中で先生がたまに使うインドネシア語を通訳してくれたり，授業後にご飯に誘ってくれたりしました。また，授業がない日には山や滝，湖などいろいろな場所につれていってくれたり，一緒に友達の誕生日をインドネシアのスタイルで祝ったりと，想像していたよりもはるかにたくさんの思い出をいろいろな友人と作ることができました。
また，日本で暮らしていた自分にはあまりなじみのなかった宗教についても学ぶことができました。インドネシア国民の大半を占めるムスリムは，宗教上一日に 5 回礼拝をすることが決まっていて，ムスリムの人はそれをしっかり守っていました。そして，インドネシアではキリスト教やヒンドゥー教，カトリック教などさまざまな宗教が混在しているにもかかわらず，お互いを嫌って排除しようとするのではなく，それぞれがお互いの宗教を知り，尊重しあっていました。
インドネシアの家族間の関係は，日本以上に固い絆で結ばれており，こまめに両親と連絡したり，友達を両親の家に連れて行きもてなしてくれたりととても暖かい家族の姿を何回も見ることができました。そのような面では，すごく日本と近いものを感じることができ，どこか懐かしい気持ちにもなりました。
確かにインドネシアに留学してみて，すべてが順風満帆でうまくいったわけではなく，最初のころは食べ物が口に合わずお腹を壊したり，自分のいいたいことの 7 割ほどしか伝えられなかったりとさまざまな不自由を経験しました。ですが，そのような不自由な思いも乗り越えてしまえばいい思い出にかわり，今後の自分の自信となり支えてくれるものになるのではないかと思います。インドネシアには，たくさんの自然と遺跡があり魅力的な国でしたが，一番魅力があるのはインドネシアの人達ではないかと思います。そんな魅力あるやさしいインドネシアの人達と一緒に生活し，たくさんの違いを経験できたことが私にとっては大きな財産になったと思います。

履修科目

Production of Annual Crops（3 単位）
Soil Management（3 単位）
Principles of Plant Protection（2 単位）

Farm Management（2 単位）
Fish Technology（2 単位）
Seminar（1 単位）

授業から学び得た専門的な内容について

授業においては，農学という分野の中でも土壌など一つの特定の科目に絞るのではなく，植物病理，土壌，農業運営，魚のことなど幅広い分野について学びました。
植物病理においては，ある植物に対して起こりやすい病気を知り，それに対して効果的な対策を学びました。また，現在存在する対策だけでなく，これから研究を進めて行けば有効な対策になりそうな研究についても学び，今後自分が研究を進めていく上での新たなアプローチの仕方についても学ぶことができました。
土壌については，日本で学んだ土壌学の講義と重複する部分もありましたが，それを今度は日本語ではなく英語で学ぶということで，土壌に関する英単語などが体系的に学べたとともに，土壌に関する知識の定着が図れたのではないかと思います。また，課外授業もあり実際にその土壌がどのような場所に存在するのかを知り，その土壌の特徴とそれを囲む周りの環境を考慮しながら，その土壌が抱える農業利用上の問題とそれに対する対応を学びました。
農業運営については，毎回生徒が 2 グループずつプレゼンテーションをする形で授業が進んでいきました。そこでは，生徒ができるだけ原稿を覚え，聞いている人に自分たちが伝えたいことをしっかりと相手に伝わるように，アイコンタクトをしながら伝えていました。また，プレゼンの後には質疑応答が行われ，その科目に対する知識をみんなで深めていました。詰め込み式の授業といわれる日本の授業スタイルではあまり見ない授業形式だったので，新鮮であると同時に，自分の説明能力の低さを痛感させられました。
水産学の分野の授業では，魚肉の温度による鮮度の影響や保存の仕方，加工方法を学びました。また，イスラム教徒が多いインドネシアという国では，保存料や着色料にも注意が必要であるということも学ぶことができました。このように，日本ではあまり意識することのない宗教について，住む国によっては大きな関心事となり，学問分野を超えて考慮しなければならないということを学びました。

自らの専門分野との直接的または間接的な関連性について

土壌学においては，自分が日本で学んでいる分野に密接に関係があり，今後研究室を選んでいくにあたり，参考になる授業だったと思います。また，違う国で専門的に学んでいる学生と親しくなれたということで，その分野に関する意見の交換がしやすくなり，多角的に一つの物事を見る手段を手に入れられたのではないかと思います。
また，ほかの分野の科目においては，日本ではあまり触れることがなく，一つの問題を解決している間に思わぬところで別の問題が発生してしまう可能性があるということを学べたという点で，大いに受講した意味があったと思います。

海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点

工夫した点としては，海外の友達をたくさん作ったことです。せっかく海外の大学に留学したので，日本ではできない経験をたくさんしたいと思い，積極的に現地の学生に話しかけました。そして，現地の学生とご飯を食べに行ったり，出かけたりする機会が増え，自然と英語に触れる機会も増えました。また，それによって授業中も先生が言っていることが理解しづらいときなどには，現地の友達などにためらうことなく聞けました。
違う国で授業を受けてはいましたが，そのことを意識しすぎて過度に緊張してしまうと授業の内容があまり頭に入らなくなってしまうと思い，できるだけ授業を受ける環境を日本のものに近づけられるようにしました。